

観光振興クーポン券発行事業の実績について

産業経済部 観光課

1 事業の目的

国の政策による地域住民生活等緊急支援のための交付金を活用した観光振興クーポン券（以下「クーポン券」という。）を用いて、飯田市がふるさと旅行券事業補助金を交付し、地域外からの消費喚起を支援するとともに、飯田市における観光の振興と観光事業者の活性化を図る。

2 事業のしくみ

- ・市が飯田観光協会に業務委託して配布したクーポン券を、飯田市外からの旅行者がクーポン券利用可能施設において使用した際に、当該施設事業者が料金の割引を行う。
- ・クーポン券は料金等 3,000 円につき 1 枚（1,000 円割引）を、1 人につき上限 2 枚まで使用できることとする。
- ・市は、その実績に応じ割引を行った事業者に対し、割引額相当額の補助金を交付する。

3 事業の概要

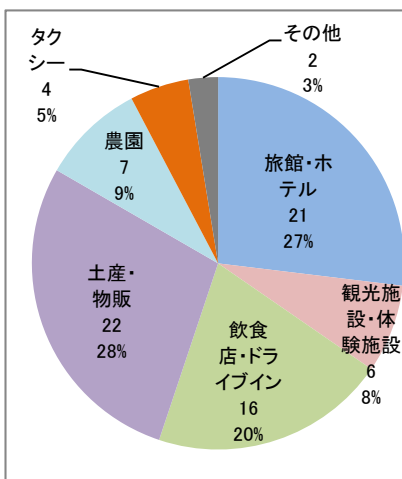
- ・クーポン券利用登録施設は、飯田観光協会員の事業者の内、登録申請のあった市内 78 店舗等
- ・予算規模・・・2,400 万円（内訳：補助金 2,000 万円、委託料 400 万円）
- ・利用期間・・・平成 27 年 4 月 25 日から 12 月 31 日まで

4 PR方法

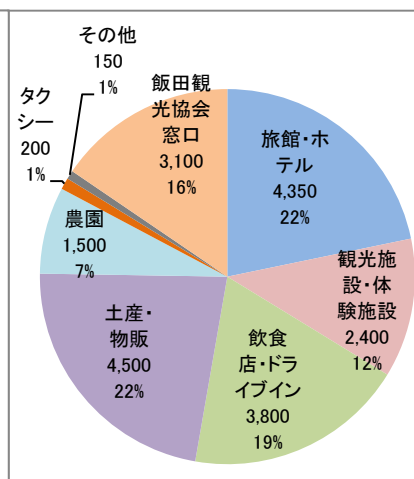
- ・市外に向けた利用促進の情報発信として、飯田観光協会のホームページ「南信州ナビ」への掲載、観光情報誌や中京圏の新聞広告へ掲載した。
- ・登録事業者は、飯田観光協会で作成したポスターやチラシの利用のほか、旅行代理店等への営業活動（10 社）、自社ホームページや SNS による情報発信（8 社）、自社で作成したポスターやチラシの利用（8 社）などによる PR を行った。

5 実施状況

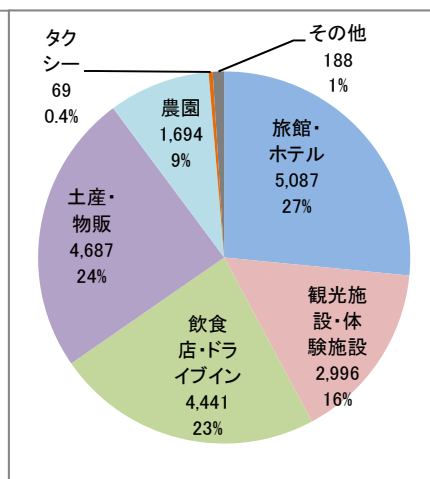
業種別クーポン券使用可能施設



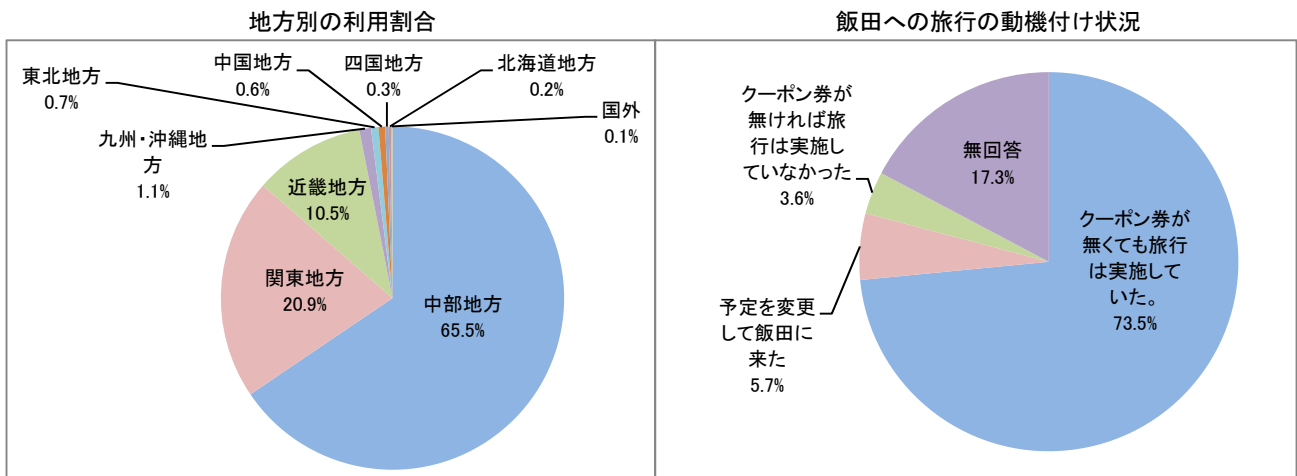
クーポン券配布枚数【20,000 枚】



クーポン券利用枚数【19,162 枚】



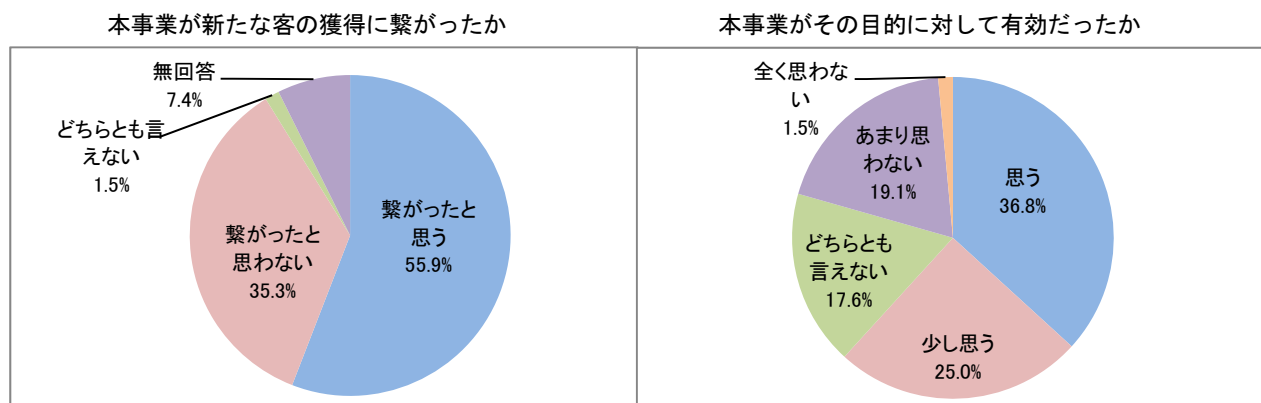
- ・実施期間中に利用実態調査を 2 回行い、事業者間でのクーポン券の配布枚数調整を図った。
- ・県内からの旅行者はおみやげ店や飲食店の利用割合が高く、関東圏・関西圏など遠方からの客は宿泊施設の利用が高い。中京圏は平均的に利用されている傾向が見られた。
- ・クーポン券は 20,000 枚発行し、その内 19,162 枚（95.8%）が利用されており、旅行者の範囲も北海道から沖縄に至るまで 47 都道府県と海外からの利用もあった。



6 クーポン券利用者に対して行った利用実態アンケートにおける考察（回答数 4,332 通）

- ・アンケートにおけるクーポン券の利用枚数は6,609枚となることから回収率は34.5%と推測
- ・「クーポン券が無ければ旅行は実施していなかった」という回答が156名（3.6%）、「クーポン券が無くても旅行は実施したが、始めの予定は飯田でなく、予定を変更して飯田に来た」という回答が246名（5.7%）あり、回収率で割り返すと、約1,160名が本事業により新規に獲得した観光客といえる
- ・クーポン券以外での支払額を聞いたところ、3,161通が有効回答を記入し、その利用枚数は4,793枚で合計は約2,750万円であったことから、クーポン券19,162枚を利用することで、約1億1,000万円の現金が使われたと推測される

7 実施後にクーポン券使用可能施設に対して行ったアンケートにおける考察（回答数 68 社）



- ・クーポン券の発行が、新たな客の獲得に繋がったとした施設は38社（55.9%）あり、その人数は約5,300名であった
- ・クーポン券の発行が、その目的である「地域外からの消費喚起の支援及び、飯田市における観光の振興と観光事業者の活性化」に有効だったと思うか。という質問は、「思う・少し思う」が61.8%、「あまり思わない・全く思わない」が20.6%であった。
- ・クーポン券のことを知らずに飯田に来て、支払いの際に初めて知った観光客もいたと思われるが、宿泊費用がクーポン券で浮いた分で土産を購入する方がいて売上げに繋がった（旅館）、売店の売上げが伸びた（体験）、注文金額が3,000円を超えるようになった（飲食）、客単価が3,000円を目安に買ってもらえることが出来て販売促進につながった（土産・農園）という意見も多くあり、事業者の活性化に繋がったと考えられる
- ・一方で、観光施設と違い一般食堂のため、来店して初めて知る人がほとんどだった（飲食）、地域外からの予約が全くなく、来店客にポスターで説明してもらった程度のため効果がなかった（飲食）という声もあり、特に地元の方の利用が多い施設にとっては、使用可能施設となったものの、有効な利用ができなかったようである。
- ・近隣町村の利用が多いのではと危惧されたが、なるべく遠方から来ていただいた観光客に利用してもらいたいという姿勢で対応していただいたため、下伊那地域の利用は1,050枚（5.5%）のみであった